

2019年度 第7回 理化学研究所・和光事業所・研究倫理第三委員会 議事録

日時：2020年1月28日（火）16:05～18:20

場所：理化学研究所・和光地区・脳科学中央研究棟4階セミナー室（S405）

出席委員：加藤 忠史（委員長）、小池 良輔、寺崎 アサ子、馬塚 れい子、片山 敦、
佐々 嘉充（順不同）

欠席委員：小笹 由香、今本 尚子

事務局：田口、原沢、堀江、本田（安全管理部生物安全課）

議事内容：

1. 研究計画審査（審議事項）

①新規申請

受付番号	：	【W2019-058】
研究課題名	：	「オプティカルフロー抽出アルゴリズムの身体知情報学応用に関する検証研究」
研究概要	：	Wako3 2019-26にて予備実験を行ない、開発したアルゴリズムの有効性を示す結果を得る見通しがったため、本実験を60名で実施する。理研には60名規模実験のノウハウがあるので、本実験は理研が主体となって実施する。 健常者を対象とした心理物理実験及び解析を行う。心理物理実験を、理研または所外施設をレンタルして行い、解析は、理研において行う。
研究実施責任者	：	ISC・計算工学応用開発ユニット・専任技師・竹市 博臣
説明者	：	同上

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

A 委員：同意書がある＝個人情報がかかることになるが、同意撤回への対応はどうか。

説明者：同意書は頂くが、データとの対応表を作成し無いので、データの廃棄はできない。

審査結果：適正と判断する。

コメント：なし

②新規申請

受付番号	：	【W2019-061】
研究課題名	：	「機械学習・深層学習を用いた成人循環器超音波検査における画像診断支援技術の開発」

研究概要	本研究では、深層学習を中心とした人工知能技術を用いて、エキスパートによる超音波画像診断を教師データとした特徴量抽出・解析を行い、獲得した新規アルゴリズムを用いた成人循環器超音波検査における画像診断支援技術の開発を目指す。
研究実施責任者	AIP・がん探索医療研究チーム・副チームリーダー・小松 正明
説明者	同上

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

C 委員：●●も利益相反で問題無しか。

説明者：向こう（●●）で判断することかと考えている。

A 委員：類似の課題が第一委員会で承認されているようだが。

説明者：実施中である。

審査結果：適正と判断する。

コメント：「利益相反委員会における審査状況」の項目は委員会で説明のとおり審査結果を反映すること。

③新規申請

受付番号	【W2019-059】
研究課題名	「VRプログラムによる認知機能・運動機能改善効果の実証的研究」
研究概要	VRにより空間を自由に探索することで旅行体験をしながら、その際に首の運動が期待でき、且つ体験中に首がどのくらい動いたかを計測するプログラムを用いて、4週間介入することによる頸椎可動域改善と、空間認知機能の改善効果があるかを無介入群と比較することで確認し、認知機能と身体機能改善プログラムとして確立する。
研究実施責任者	AIP・身体知伝達技術チーム・チームリーダー・檜山 敦
説明者	ISC・計算工学応用開発ユニット・研究員・宮崎 敦子

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

C 委員：無介入は本当に無介入か。

説明者：無介入である。

C 委員：（無介入のグループまたは施設関係者から）何かやりたいという希望が出されるのではないか。

説明者：以前、説明者が実施した課題でもご協力いただいた機関なので、そこはご理解いただけている。

I 委員：実施場所に〇〇大学の記載があるが、関係が分からない。

説明者：檜山チームリーダーの〇〇大における居室である。

A 委員：VR でなければいけないのか。散歩ではだめなのか。

説明者：外に出る機会の少ない方に対してリハビリテーションで VR を使用しているケースもある。今回施設入居の方を対象としていることもあり、そのような方が外に出るきっかけとなればと考え VR を計画している。

A 委員：被験者の制限が特に無いようだが。

説明者：施設に入居している人を対象に募集するので、改めて制限は無い。

J 委員：1 施設で実施するのか。

説明者：そうである。

審査結果：適正と判断する。

コメント：「研究方法」に記載の実験回数の修正及び「利益相反委員会における審査状況」の項目は委員会で説明のとおり審査結果を反映すること。

④新規申請

受付番号	：	【W2019-054】
研究課題名	：	「集合的意思決定場面における倫理的判断についての研究」
研究概要	：	異なる倫理的判断をしている複数の個人からなる集合的意思決定場面を想定したシナリオと、そのシナリオに対しどのような意思決定ルールで集団としての意見を集約することを望ましいと感じるかなどの質問に回答してもらい、どのような意思決定ルールや議題設定を行うことで人々は手続き的な正当性をより感じる事ができるのかを理解する。
研究実施責任者	：	AIP・認知行動支援技術チーム・研究員・関口 卓也
説明者	：	同上

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

A 委員：この研究は自然科学につながるか。

説明者：工学的な応用可能性がある。

A 委員：心理テストだといいい加減なクリックへの引っ掛け問題的なものがあるが（そのような手法、対策を用いるか）。

説明者：オンライン調査では（いい加減な回答も）一定数存在すると思う。

C 委員：もともと数学モデルがあるとのことだが、どのようなものか。こういう問題でいいのか。

説明者：論理構造をもった課題に対する集合的意思決定を問題にする判断集計の枠組みを採用するが、今回の質問紙で扱われる議題に特化したものは扱われてこなかった。また、

質問紙で扱われるのは、判断集計の枠組みの中でも単純なケースである。

(説明者退席)

A 委員：研究目的と方法に問題があるという C 委員のコメントだが。

C 委員：倫理的な問題ではないが、結果が偏る場合があるので、(その場合は) 設定を変えればよい。

審査結果：適正と判断する。

コメント：なし

⑤変更申請

受付番号	：	【W2019-057】
研究課題名	：	「ロボットとの会話による認知機能訓練手法に関する研究」
変更内容	：	<ul style="list-style-type: none">・同意説明文書の文言を一部修正。・「研究方法」各項目と各研究 Step での実施範囲の明確化。・「研究実施場所」場所を追加。・「ヒト由来試料・情報提供者/被験者について-対象と人数」被験者の募集先を修正。・「ヒト由来試料・情報提供者/被験者について-謝礼(原則無償)」謝礼額を明記、各研究 Step での謝礼対象を記載。・「試料・情報の取得」同意を得るために説明を行う者の追加・「試料・情報の管理」作成する研究者等の追加。
研究実施責任者	：	AIP・認知行動支援技術チーム・チームリーダー・大武 美保子
説明者	：	AIP・認知行動支援技術チーム・特別研究員・徳永 清輝

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

A 委員：1回 15分で 74回だと 2万円か。

説明者：74回×15分で、約 20時間と計算している。

(説明者退出)

E 委員：7 ページの既往歴を取得するなら、要配慮個人情報是有りではないか。

審査結果：要件を満たしたうえで適正と判断する。

要件：アンケートにて学歴、病歴の回答を得るため、要配慮個人情報を含むとし、管理を行

うこと。

⑥変更申請・継続審査

受付番号	：	【W2019-027】
研究課題名	：	「脳疾患バイオマーカのための人工知能技術とビッグデータ解析技術の開発」
変更内容	：	1. 研究の意義及び目的- 国内外の関連研究における位置付け、字句修正 2. 研究方法 3. 対象と人数-健常者の人数を修正 4. 入手するヒト由来資料・情報/被験者測定情報 および 既提供ヒト由来資料・情報の内容 5. □□大学の被験者説明文書および倫理審査承認通知を添付
研究実施責任者	：	AIP・計算脳ダイナミクスチーム・チームリーダー・山下 宙人
説明者	：	事務局

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

A 委員：説明文書中のデータの転用の項目で理研を読むのか。

説明者：質問紙については、口頭で説明している。

審査結果：適正と判断する。

コメント：なし

⑦変更申請

受付番号	：	【W2019-055】
研究課題名	：	「言語特有の音韻体系の獲得」
変更内容	：	・同意を得るために説明を行う者の追加、削除、職名変更 ・試料・情報の提供等に関する記録について作成者追加、職名変更 ・〇〇大学、△△大学との共同研究に係る幼児児童行動実験用説明文書の追加 ・共同研究機関と共同研究契約終了等に伴う「研究方法」「研究実施場所」「募集方法」項目中関連記載、「別紙 共同研究機関」の変更、削除
研究実施責任者	：	CBS・言語発達研究チーム・チームリーダー・馬塚 れい子
説明者	：	同上

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

審査結果：適正と判断する。

コメント：なし

⑧変更申請・要件確認

受付番号	：	【W2019-036】
研究課題名	：	「健常高齢者の会話支援による認知機能訓練に関する研究」
変更内容	：	対照群の設定及び研究実施場所の追加、対象人数の追加、募集方法の追加、ヒト由来情報の追加、同意を得るために説明を行う者の追加、既提供ヒト由来情報の追加、測定/解析結果等の開示の修正（説明文書および同意書の修正）、共同研究機関の追加
研究実施責任者	：	AIP・認知行動支援技術チーム・チームリーダー・大武 美保子
説明者	：	事務局

説明者より資料に基づき説明があり、その後、質疑応答・審査を行った。

J委員：共同研究機関との関係含め研究全体また説明書に何が書かれているか分かりにくい。

A委員：委員会が具体的な方法を示すのはリスクである。●●市の同意書と計画の内容の範囲内で書くよう求め、確認はメール審議で行う。

審査結果：要件を満たしたうえで適正と判断する。

要件：●●市の地域包括ケア計画とその同意書の記載の範囲で実施可能と考えられる方法を提案すること。

2. 報告事項

・2019年度 第5回迅速審査結果報告(2020.1.27)報告事項

事務局より、資料に基づき、2019年度第5回迅速審査について報告があり、これを確認した。

3. その他

・次回以降の委員会開催日程について

事務局より、以降の委員会開催日程について説明があった。

以上